

高等学校の新学習指導要領解説書における「新聞」関連記述（抜粋）

この資料は、新学習指導要領（平成30年3月告示）解説（同年7月）から、「新聞」「報道」「論説」「ニュース」などの記述を抜き出したものです。「新聞」以外の語句については、新聞との関連性を勘案して抽出しています。

【国語科】

第1章 総説

第4節 国語科の内容

2 〔知識及び技能〕の内容

(3) 我が国の言語文化に関する事項

○読書

読書の意義や効用などに関する事項である。

読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結び付くよう発達の段階に応じて系統的に指導することが求められる。

なお、読書とは、本を読むことに加え、**新聞**、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。（略）

第2章 国語科の各科目

第1節 現代の国語

3 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

○話題の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

目的や場に応じて、適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することを示している。

「現代の国語」では、中学校との接続を考慮し、話題を設定する範囲を実社会の中からとしている。（略）

実社会の中から適切な話題を決めるとは、実社会の事象や話題（社会的な話題、国際的な話題、文化的な話題、地域に関する話題など）について、テレビや**新聞**、インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられることに加えて、必要に応じて予備的な調査を行ったり専門的な研究の成果を踏まえたりして、目的や場にふさわしい話題を選択することである。

様々な観点から情報を収集、整理するためには、話題となる事柄自体が多様な側面を持

つこと、立場や文化的背景の相違などから様々なものの見方や考え方が存在することなどを理解する必要がある。その上で、資料に当たったり関係者にインタビューをしたりなどして幅広く調べ、目的に応じて整理することを求めている。対象とする文章の形態や文章の内容や分野の幅を広げるとともに、図書館の目録を検索したりウェブページを検索したりするなど本や文章を手に入れる方法や場についても適切に選択する必要がある。なお、ウェブサイトの情報には、その信頼性や妥当性に十分留意する必要がある。(略)

○表現，共有（話すこと）

ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫すること。

中学校第2学年のウ，第3学年のウを踏まえ，相手の理解が得られるように表現を工夫することを示している。

実社会では多様な聴衆を対象とし，的確に伝えるとともに速やかに用件をやりとりすることが考えられる。その際，相手の理解が得られない部分を的確に捉え，臨機応変に表現を工夫する必要がある。そのためには，話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりすることなどが重要である。(略)

場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いるためには，目的を踏まえるとともに，実際に話す状況に照らしながら，それらの効果を考える必要がある。ここでの資料とは，話題に応じて，本だけでなく**新聞**，パンフレットやチラシ，ポスター，公示・通達・契約書などの文書など，その種類は多岐にわたる。また，図表やグラフなどについても，既成のものを引用するだけでなく，必要に応じて，元の資料と照らしてその信頼性を確認したり，情報を整理，分析し，新たに作成したものを用いたりすることなどが考えられる。資料を用いる際には，その内容の重要度を明確にし，話す内容との関係を十分考慮しながら適切に用いることが重要である。(略)

B 書くこと

○構成の検討，考えの形成，記述

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫すること。

中学校第3学年のイ及びウを受けて，自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫することを示している。

自分の考えや事柄が的確に伝わるとは，書き手が伝えたい考えや事柄が，間違いなくかつ過不足なく読み手に受け止められることである。

根拠の示し方には，文章で示すか図表やグラフを用いて示すかといった，示す方法に関することと，自分の実体験（1次情報）に基づくか，聞き書きなど他者の体験の引用（2次情報）によるか，**新聞**等で得られた情報（3次情報）を利用するかといった情報の種類

に関わることの両方が含まれている。想定する読み手や伝えたい情報の種類などを検討した上で、最もふさわしい方法を選択する必要がある。

また、説明の仕方には、例えば、出来事や事実などを説明する場合には、全体を俯瞰した後に細部を説明する仕方や、部分の説明を積み重ねて全容を説明する仕方などが、意見や考えを説明する場合には、箇条書きなどキーワード等を示して手順を説明する仕方や、主張と論拠のみを簡潔に示して説明する仕方、主張と論拠に併せて多くの具体例を示し詳細に説明する仕方などがある。

これらを、自分の考えや伝えたい事柄に合わせて組み合わせ、読み手に間違いなくかつ過不足なく伝わるように記述していくことが求められている。

ここでの文章の種類とは、論理的な文章(説明, **論説**, 評論など)、実用的な文章(記録, 報告, **報道**, 手紙など)といった、事実に基づき虚構性を排したノンフィクション(小説, 物語, 詩, 短歌, 俳句などの文学作品を除いた, いわゆる非文学)の文章の種類を指す。これを踏まえた, 書くことの指導における言語表現の種類としては, 説明, 記録, 報告, 意見, 主張のための文章, 通信や伝達を目的とした文章などがある。(略)

○言語活動例

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み, 本文や資料を引用しながら, 自分の意見や考えを論述する活動。

論理的な文章や実用的な文章の本文や資料を引用しながら, 自分の意見や考えを論述する活動を示している。

ここでの論理的な文章とは, 現代の社会生活に必要とされる, 説明文, **論説**文や解説文, 評論文, 意見文や批評文などのことである。一方, 実用的な文章とは, 一般的には, 実社会において, 具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり, **新聞**や広報誌など**報道**や広報の文章, 案内, 紹介, 連絡, 依頼などの文章や手紙のほか, 会議や裁判などの記録, 報告書, 説明書, 企画書, 提案書などの実務的な文章, 法令文, キャッチフレーズ, 宣伝の文章などがある。また, インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも, 実務的な文章の一種と考えることができる。論理的な文章も実用的な文章も, 事実に基づき虚構性を排したノンフィクション(小説, 物語, 詩, 短歌, 俳句などの文学作品を除いた, いわゆる非文学)の文章である。

書く目的や意図に応じてこれらの文章を読み, 必要な情報を収集して, その本文や関連する他の資料を適切に引用しながら, 自分の意見や考えを論述する活動である。

なお, 本文や資料を引用するのは, 自分の意見や考えを論述する目的に照らして必要であるためであり, 「C読むこと」ではなく, あくまでも「B書くこと」の言語活動であることに留意する。引用には, その情報を根拠として示すことによって自分の意見や考えを補強して説得力を高めたり, 論点を提示したりする役割などがある。引用した部分と自分の意見や考えとを明確に書き分けること, 資料には必ず出典を明記することなど, 論述する際の基本的なルールについて留意する必要がある。

イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動。

読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動を示している。

手順書とは、一般に、業務や作業を適切に行うための方法や基準を解説した文書のことであり、取扱説明書(マニュアル)もその一つである。紹介文とは、読み手が知らないことや知りたいと想定されることを伝える文章のことである。人や物の紹介には、推薦書、本の紹介、部活動の紹介、製品のカタログ、**広告**、宣伝などがあり、その範囲は幅広い。

言語活動としては、例えば、図書の貸し出しの手順を示す掲示物やマニュアル、さらには図書館そのものの利用規程を書いたり、地域の魅力について簡潔に紹介したりする活動が考えられる。いずれも、読み手が必要とする情報を的確に捉えたり想定したりすることが重要である。(略)

C 読むこと

○構造と内容の把握

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。

中学校第3学年のアを受けて、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することを示している。

文章の種類とは、ここでは現代の社会生活に必要とされる論理的な文章や実用的な文章を指す。論理的な文章とは、現代の社会生活に必要とされる、説明文、**論説**文や解説文、評論文、意見文や批評文などのことである。一方、実用的な文章とは、一般的には、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり、**新聞**や広報誌など**報道**や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼などの文章や手紙のほか、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書などの実務的な文章、法令文、キャッチフレーズ、宣伝の文章などがある。また、インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも、実務的な文章の一種と考えることができる。論理的な文章も実用的な文章も、事実に基づき虚構性を排したノンフィクション(小説、物語、詩、短歌、俳句などの文学作品を除いた、いわゆる非文学)の文章である。

文章の種類を踏まえるとは、これらの文章は、書かれる目的や表現方法、書式などが異なるため、それぞれの文章の特徴を捉えた上で読むことの対象とするということである。

内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉えるとは、その文章が書き手の主張を支えるために、材料としてどのようなものを選び、それをどのように組み立て、どのような筋道で考えなどを述べているのかを、文章の叙述を基に的確に捉えることである。

要旨とは、文章の内容の中心的な事柄や書き手の考えの中心となる事柄のことである。

また、要点とは、一続きの文章のみではなく、主として箇条書きや図表などを含む実用的な文章の場合に、内容の中心となる事柄を指す。(略)

○精査・解釈，考えの形成，共有

イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。

中学校第3学年のイ，ウ及びエを受けて、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることを示している。

現代の社会生活で必要な**論理的な文章**や**実用的な文章**は、具体的な目的や働きといった明確な役割を担っている。この点は、社会的に高い評価を受け、文化的な価値を蓄積してきた評論や小説等とは異なっている。具体的な社会生活の場面の中でこれらの文章を読む際には、何らかの目的に応じて文章の内容が解釈され、読み手の判断や行動が促されていく。これらの文章の文脈を意識した読む資質・能力の育成が、これからの時代には求められる。

文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けるとは、読む対象の多様性と複数性を踏まえた情報の関連付けを意味している。読む対象には、同じ形式で書かれた一続きの文章のほか、異なる形式で書かれた文章が組み合わせられているものがある。中には、概念図や模式図、地図、表など様々な種類の図表を伴う文章もある。文章と図表などの断片的な情報がどのように相互に関連しているかを確認するなどして、よりの確に内容を捉えるとともに、その結果、どのような効果が生まれているのかを考える必要がある。

書き手の意図を解釈するとは、例えば、個々の段落の働きを確かめたり、段落相互の関係を読み取ったりすることで、文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、書き手の考えの強調点を読み取り、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかということにまで迫ることである。

現代の社会生活で読まれる**論理的な文章**や**実用的な文章**における書き手の意図を解釈する場合、書き手は単一の個人である場合もあれば、組織や機関といった集団である場合もあることに留意する必要がある。

文章の構成や論理の展開などについて評価する場合、読み手の目的に照らして、文章の組立て方や筋の流れが効果的か、また意図を分かりやすく伝えているかなどの観点から、文章の構成や論理の展開についての適否や善し悪しを判断するとともに、どのような特徴があるかについても具体的に指摘できるようにすることが必要である。こうした文章に関する評価は、情報を鵜呑みにせず多角的に検討する、批判的に読むための基本となる。

批判的に読むとは、文章に書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読むことである。また、読み手の目的や必要に応じて、文章の中の情報を取り出したり、別の文章や情報と関連付けて解釈したりして、

考えを深めることにつなげていくことも批判的に読むことの内実である。(略)

○言語活動例

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動。

論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動を示している。

ここでの論理的な文章とは、現代の社会生活に必要とされる、説明文、**論説**文や解説文、評論文、意見文や批評文などのことである。一方、実用的な文章とは、一般的には、実社会において、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり、**報道**や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼などの文章や手紙のほか、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書などの実務的な文章、法令文、キャッチフレーズ、宣伝の文章などがある。また、インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも、実務的な文章の一種と考えることができる。論理的な文章も実用的な文章も、事実に基づき虚構性を排したノンフィクション(小説、物語、詩、短歌、俳句などの文学作品を除いた、いわゆる非文学)の文章である。

これらの文章を読んで、その内容や形式について論述したり批評したりする活動を行う際に、必要に応じて、引用や要約などをすることで、文章の構造と内容を的確に把握したり、解釈を深めたりすることができる。論述や批評をすることによって、把握した構造や内容のどこを重視しているか、表現の仕方の特長や課題など形式についての考えを明らかにすることができる。例えば、安全とは何かを論じた複数の**論説**文を読み比べて書き手の考えや論じ方の違いを明らかにし、どちらが適切かについて本文を引用しながら論述する活動などが考えられる。

イ 異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする活動。

異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする活動を示している。

例えば、条例文とその趣旨を分かりやすく解説した文章など、異なる形式で書かれた複数の文章を比較しながら読んだり、図表等を伴う文章を相互に関連付けながら読んだりして、解釈したことを聴衆に向けてまとめて発表したり、わかりやすく**新聞**などに書き換えたりする活動が考えられる。比較したり、関連付けたりする際には、相違点や対立点だけでなく、共通点や類似点などにも目を向けさせることで、推論のための基盤が整う。

例えば、自治体の条例をめぐる複数の意見文(**複数の新聞の社説及び記事**と、信頼できるインターネット上のコメント)等を読んで、議論の対立点を捉えるとともに、それぞれの論拠の妥当性を検討して、条例のどこをどのように修正すべきかを考えるとといった活動が考えられる。

4 内容の取扱い

(4) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材は、現代の社会生活に必要なとされる論理的な文章及び実用的な文章とすること。

論理的な文章とは、説明文、**論説文**や解説文、評論文、意見文や批評文などのことである。現代の社会生活に必要なとされる論理的な文章とは、これらのうち、これまで読み継がれてきた文化的な価値の高い文章ではなく、主として、現代の社会生活に関するテーマを取り上げていたり、現代の社会生活に必要な論理の展開が工夫されていたりするものなどを指している。

一方、実用的な文章とは、一般的には、実社会において、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり、**新聞**や広報誌など**報道**や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼などの文章や手紙のほか、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書などの実務的な文章、法令文、キャッチフレーズ、宣伝の文章などがある。また、インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも、実務的な文章の一種と考えることができる。

現代の社会生活における実用的な文章には、図表や写真などを伴う文章が多いことから、指導のねらいに応じて、これらを教材として適宜取り上げることが必要である。図表や写真などを含むものとは、異なる形式で書かれた文章が組み合わせられているものや、概念図や様式図、地図、表、グラフなどの様々な種類の図表や写真を伴う文章などが挙げられる。これらの関係は、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている場合、文章が図表などの解説になっている場合などがある。なお、取り上げる場合には、表やグラフの読み取りが学習の中心となるなど、他教科等において行うべき指導とならないよう留意する必要がある。

論理的な文章も実用的な文章も、事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説、物語、詩、短歌、俳句などの文学作品を除いた、いわゆる非文学）の文章である。

読むことの教材については、単に文章や作品といった意味にとどめて読み取りに重点を置きすぎることなく、生徒自らが見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう、具体的な学習の手立てや方向性も併せて示したものとして考えていくことが大切である。

第2節 言語文化

3 内容

〔知識及び技能〕

(2) 我が国の言語文化に関する事項

○読書

カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。

中学校第3学年の才を受けて、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めることを示している。

我が国の言語文化への理解とは、上代から近現代までの連続した時間の中で言語と文化の関わりについて、多様な視点で考えたり新たな認識を深めたりすることを指している。そのためには実体験だけでなく、読書を通して新しい知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることが必要となる。

具体的には、同一のテーマについて描かれた複数の作品を読み比べ、それぞれの作品の歴史的・文化的背景の違いを考えながら、人間、社会、自然などについて考えたり、当時の人々のものの見方、感じ方、考え方を味わったりすることなどが考えられる。古典を読む場合には、原文で味わうことも大切であるが、現代語訳を読んで作品の世界を身近に感じることに重点を置く読み方も重要となる。さらに、古典を翻案した近現代の物語や小説などを読むことによって、古典の世界を身近に感じるだけでなく、伝統的な言語文化が享受された一つの在り方に触れることができる。

また、物語や小説だけでなく、韻文や脚本、随筆、文化を論じた近現代の評論など幅広い分野の作品を視野に入れることも大切である。図書館などで図書に触れることに加え、**新聞**やインターネットなどの図書の紹介欄にも積極的に目を通し、読書に対する自分の興味・関心の幅を広げながら、多くの図書を読んでいくような読み方も大切である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 読むこと

○構造と内容の把握

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。

中学校第3学年のアを受けて、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることを示している。

文章の種類には、文語文と口語文、韻文体と散文体、和文体の文章と漢文体の文章と翻訳文体の文章などの文体による整理や、実用的な文章、論理的な文章、文学的な文章など書き手の目的や意図、虚構性の有無などによる整理などがある。これらの文章はそれぞれ特徴をもち、文章の用途に応じて適宜用いられる。文章の種類を踏まえるとは、対象となる文章が、これらのどれに属し、どのような特徴を持っているかを把握しておくことを意味する。

内容や構成、展開などとは文章を読む際に把握すべき事柄について示している。「言語文化」では、近代以降の評論や**論説**などの論理的な文章については、我が国の伝統と文化に関するものを活用することを示している。書き手は、我が国の伝統と文化について、何を述べようとしているのか、何を読み手に伝えようとしているのか、そのためにどのような筋道で文章を書き進めているのかなどを念頭に置き、話題の展開を推測しながら、思い込みや誤解がないように、叙述を注意深くかつ丁寧に捉えることが求められる。それによっ

て、読み手の中に書き手のものの見方や考え方とその筋道がはっきりと浮かび上がることが重要である。文学的な文章の場合、内容には、作品や文章に明示されており的確に把握できる人物や心情、情景の描写などが含まれるが、ここでは、叙述を基に的確に捉えられるものを対象としている。特に、心情の把握については、文章に明示されている叙述により、読み手が読み取るべきものを間違いなくかつ過不足なく捉えることが重要である。読み手は、あくまでも叙述に即して、出来事や場面の推移などを把握することが求められる。また、登場する人物が他の人物や出来事などどのような関係を形成しているのか、それがどう変化しているのかを、人物や情景の描写などを根拠として捉えることが、精査・解釈の前提となる。

4 内容の取扱い

(4) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含めるとともに、我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう、我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げること。また、必要に応じて、伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料を用いることができること。

〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、古典及び近代以降の文章とすることを示している。なお、古典とは、古典としての古文と漢文を指している。

〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、内容の取扱いの(1)のイ及びウに示した配慮事項を踏まえ、古典と近代以降の文章の両方にわたって選定する必要がある。その際、古典としての古文には、和歌、俳諧、物語、随筆、日記、説話、浮世草子、能、狂言など、漢文には、思想、史伝、詩文など、そして、近代以降の文章には、詩歌、小説、随筆、戯曲、説明、**論説**、評論、記録、報告、**報道**、手紙など、多種多様なものがあることに留意する必要がある。(略)

第3節 論理国語

3 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 書くこと

○言語活動例

ウ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う活動。

社会的な話題について書かれた資料を集めて読み、条件を付加したり、立場を変えたりして、論文を書き、批評し合う言語活動を示している。

論説文とは、ある事柄についての書き手の分析を踏まえた解説と主張が含まれた論理的

な文章のことである。その関連資料とは、分析や主張の根拠となった図表などを含む情報や、同じ話題についての異なる立場で書かれた文章などの様々な資料のことである。

論文とは、要旨、目的、方法、結果、考察、結論のような論証の手続きを備えた文章のことである。短い論文を書く場合は、あらかじめ重要な論点を絞って書く指導が必要である。

ここでの批評し合うとは、短い論文に記された自分の考えが、適切な根拠に基づいて述べられているか、文章の構成や論理の展開が適切かどうかを多様な観点から互いに吟味し合い、主張が明確に伝わっているか確認し合うことである。例えば、予想される反論について検証したり、良い論文についての条件を考え、互いの論文の良い点、改善点を確認し合ったりすることなどが考えられる。批評し合うことは、根拠や論拠を吟味し、客観的な表現になっているか、段落の構造に矛盾がないか等に注意を払い、慎重に語句を選び一文一文を注意して書き進める姿勢を育てる。自らの文章や主張を批判的に見直して書き直す活動につなげていくことが求められる。

エ 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。

設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する言語活動を示している。

多様な資料を集めるとは、設定した題材に関するあらゆる資料のことを指す。題材についての異なる論点を持つ資料や、**新聞記事**、統計資料、映像など多様な媒体で表現されたものも含めて、情報を収集、整理して、それらの真偽を確かめ、論述するために活用できるようにまとめることが重要である。

様々な観点から自分の意見や考えを論述するためには、多様な資料を集め、調べたことを整理する中で、自分の考えを組み立てた過程を振り返り、複数の視点から再検討することが必要となる。論述する活動には、論文を書くだけでなく、意見文や論説文などの文章も含まれる。社会的な話題について関連する資料を読み、様々な観点からそれらの概要をまとめるとともに、それらに関連した自分の意見などを明確にして論文にまとめるなどの活動が考えられる。

B 読むこと

○構造と内容の把握

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。

「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(1)の「ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。」を受けて、特に論点を明確にしながら要旨を把握することを示している。

文章の種類を踏まえるとは、ここでは、文章の内容や構成などを捉えたり要旨を把握し

たりする際に、その前提として、評論や説明、**論説**、学術論文などの文章の種類によって、書かれる目的と対象、表現方法などが異なることを踏まえることを指している。

内容や構成、論理の展開などを的確に捉えるとは、その文章が書き手の主張を支えるために、材料としてどのようなものを選び、それをどのように組み立て、どのような筋道で考えなどを述べているのかなどを的確に捉えることである。

論点とは議論の中心となる問題点や議論の要点のことである。論証を目的とする文章には、一つまたは複数の論点がある。論点を明確にしながらかは、例えば、学術論文など、一つ一つの段落が典型的な構造をもっている文章を読む手立てとして、各段落の中心となる文に着目して読むことなど、適切な手立てを用いて文章の中心となる部分を明らかにしながら理解することである。

また、ある文章の中にどのような論点があるのか、複数の論点の中で何が中心として述べられているのか、などを常に考えながら読むことも重要である。

その上で、書き手による構成や展開の仕方をたどりながら、書き手のものの見方や考えの進め方を捉えることで、書き表そうとした中心的な内容を誤りなく把握することが大切である。例えば、**論説**や評論などでは、文章の中心となる主要な論点と、具体例、説明、補足、反証など主張を支える従属的な論点とがある。要旨を把握する際には、主要な論点と従属的な論点とを判別し、その関係を押さえた上で、主要な論点を的確に読み取ることが重要である。

イ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。

中学校第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。」及び「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(1)の「ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。」を受けて、様々な文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることを示している。

文章の種類を踏まえるとは、例えば、提案書や契約書、法令文など、それぞれの文章の種類に固有の特徴を踏まえることである。ここでの文章の種類とは、特に図や表を含む複数の資料とともに記された、**論理的な文章**や**実用的な文章**といった、事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説、物語、詩、短歌、俳句などの文学作品を除いた、いわゆる非文学）の文章を想定している。

資料との関係を把握するとは、主張とそれを支える資料が、書き手の主張に対してどのような役割を果たしているかを把握することである。例えば、**論理的な文章**において主張を支える根拠となるデータが示されていたり、**実用的な文章**において内容を簡潔に示した図が示されていたりする場合においては、文章が書かれた目的と文章、資料の関係を合わせて把握することが必要である。なお、ここでの資料とは、統計などの情報を整理した図表、写真、地図などのデータとしての情報や、関連する法令、主張を検討するうえで参考

となる文献など、文章の主張を支える多様な情報を含めたものである。

内容や構成を的確に捉えるとは、資料も含めた文章の内容や構成について、書き手の意図を踏まえて的確に捉えることである。その際、文章が誰を対象として、どのような主張をするために書かれているか、主張を支えるために資料がどのように効果的に用いられているか、などを考えることが必要である。

○精査・解釈【②】

エ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。

主に「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(1)のイと、「言語文化」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の(1)のウを受けて、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することを示している。

文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係を捉える際には、文章から明らかに捉えることのできる意図だけでなく、文脈から想定される意図も考えることが必要である。この文章で書き手は何を伝えようとしているのかということを読み取り、文章から捉えることのできる書き手の意図の明晰さについては、異なることに留意する必要がある。なお、書き手の意図には、文章の内容に表れている書き手の考えのみならず、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかということも含まれる。

その上で、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価するとは、文章の種類を踏まえて、その対象とする読み手に対して、例えば、書き手の意図を相手や目的を考えた構成か、資料の示し方が分かりやすいかなど、明確に伝える適切な構成や展開になっているか評価することや、文章の表現を検討して、書き手がどのように伝えようとしているか、その意図を推測し評価することなどをいう。

○考えの形成、共有【②】

キ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。

主体的に学習に取り組む態度を育成するためには、与えられた課題について学習を進めるだけでなく、それまでの学習経験や身に付けた能力などを生かしながら、課題を自ら設定し探究していく学習が大切である。文章を読んだ後の生徒の興味・関心のもち方は多様であり、設定する課題も、内容、表現の両面にわたる。

題材には、人文科学系、社会科学系、自然科学系等の別を問わず、例えば、新書や**新聞の社説**などで取り上げられる様々な分野の学術的な学習の基礎的な課題に対して、論点が明確になるようなものを設定する必要がある。

関連する複数の文章や資料を基には、題材を考察するための手立てである。学校図書館、地域の図書館、インターネットなどで参考となる資料を調べたり、現地に出かけて取材したりするなど、様々な方法によって設定した題材に関する情報を収集、整理し、それについて分析、考察を行って分かったことや考えたことをまとめるなどの学習を取り入れることである。

必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりするとは、例えば、学術的な学習の基礎について、資料を読んで得た様々な知識や思想を通して、自分の思想を新たな視点で捉え直して、より深めたり発展させたりすることである。

○言語活動例

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

現代の社会生活で必要とされる**論理的な文章**（論説文や解説文、社会生活に関する意見文や批評文等）や**実用的な文章**（法令文・記録文・報告文、宣伝文等）といった、事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説、物語、詩、短歌、俳句などの文学作品を除いた、いわゆる非文学）の文章を、目的を持って読み、文章の中心的内容を引用したり要約したりしながら、批評したり討論したりする活動を示している。

批評するとは、文章の内容や形式など、対象とするものの特性や価値などについて、論じ、評価することである。討論するとは、文章の内容や形式など、対象とするものの特性や価値などについて、それぞれの立場からの考えを述べ合うなどして、考えの相違点や共通点を基に論じ合うことである。

批評したり討論したりする活動には、**論理的な文章**や**実用的な文章**など文章の種類を踏まえて、その文章が書かれた目的や対象を明確にしながら、要旨を把握し、あらかじめ内容や形式に対する自分の考えを持つことが必要である。

内容や形式については、書き手の考えの妥当性や適切性の判断、賛否の立場を明確にすることや、論点が妥当かどうか検証すること、論理の形式や展開を検証することや、資料との関連の適合性を判断することなどが必要となる。

その上で批評したり討論したりするとは、内容や形式について、吟味の結果を評価として述べたり、評価として述べられたことを、互いに共有して、その適否や妥当性を検討して自分の考えを深めたりする活動である。

イ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする活動。

論説文やその関連資料とは、ある事柄についての書き手の分析を踏まえた解説と主張が含まれた論理的な文章や、分析や主張の根拠となった図表などを含む情報や、同じ話題についての異なる立場で書かれた文章などの様々な資料のことである。

自分の考えを論述するとは、論文を書く活動のほか、意見文や**論説文**などの文章を書く活動も想定できる。様々な観点から自分の意見や考えを論述するためには、多様な資料を

集め、調べたことを整理する中で、自分の考えを組み立てた過程を振り返り、再検討することが必要となる。

また討論する活動とは、評価として述べられたことを、互いに共有して、その適否や妥当性を検討して深める活動である。

これらの指導に当たっては、社会的な話題について書かれた**論説文**やその関連資料を読んだ内容を基に、自分の考えを構築する場面を適切に設定することが重要である。

ウ 学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりする活動。

学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文とは、例えば、専門的な学習の入門者向けに書かれた概説書や新書の文章、また論文の要旨などを指す。指導に当たっては、これらの文章を読んだ内容を基に、自分の考えについて新たな視点から検証して再構築する場面を適切に設定することが重要である。

自分の考えを論述したり発表したりするとは、論文を書くほか、意見文、**論説文**などの文章を書いたり、ポスターセッションやプレゼンテーションなどの発表の方法を用いたりすることができる。その際には、自分の考えを書いたり、発表したりするだけでなく、読み手や聞き手に対してどのように伝わったか、改めて検討する場面を設定すると効果的である。これらの活動を通して、学術的な文章に対しての理解を深めることを意図している。

エ 同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章とは、例えば、ある事柄について賛否が分かれる文章や、同じ書き手の考え方の変遷が分かる文章、対立する視点を持つ文章などを指し、近代以降の論理的な文章や現代の社会生活に必要とされる**実用的な文章**のほか、翻訳の文章や古典における論理的な文章なども含んでいる。

これらの文章を、読み比べて比較することで、それぞれの文章が持つ論点の共通点や相違点を整理して論じることができる。その上で、論じたり批評したりする際には、対象となる事柄について、そのものの特性や価値などについて、異なる論点を持つ複数の文章を読み比べることによって得た情報を踏まえて、根拠をもって論じたり評価したりすることが効果的である。

4 内容の取扱い

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とすること。また、必要に応じて、翻訳の文章や古典における論理的な文章などを用いることができること。

内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とすることを示している。

近代以降の論理的な文章とは、明治時代以降に書かれた、説明文、**論説**文や解説文、評論文、意見文や批評文、学術論文などの論理的な文章のことである。

一方、実用的な文章とは、一般的には、実社会において、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり、**報道**や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼などの文章や手紙のほか、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書などの実務的な文章、法令文、キャッチフレーズ、宣伝の文章などがある。また、インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも、実務的な文章の一種と考えることができる。これらのうち、ここでは、成立して時間が経過し文化的価値が高まったものではなく、現代の社会生活に必要とされるものを取り上げることを示している。

論理的な文章も実用的な文章も、事実に基づき虚構性を排したノンフィクション(小説、物語、詩、短歌、俳句などの文学作品を除いた、いわゆる非文学)の文章である。論理的な文章や実用的な文章については、その目的が言語表現としてどのように実現されているか、その言語表現が社会生活などにおける目的の達成のために実際にどのように機能することが期待されているか、などの視点に立って読んでいくことが求められている。(略)

第4節 文学国語

3 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 読むこと

○言語活動例

ア 作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。

文学的な文章を読んで、内容や形式などについて解釈したり考察したりしたことを表現する言語活動を示している。

書評とは、書物の内容を批評・紹介した文章のことであり、作品の紹介とともに内容に関する評価について書かれている必要がある。**新聞**や文芸雑誌における書評では新刊の書物や文章に関するものが一般的であるが、ここでは発表された時期にかかわらず、すべての文学的な文章を対象とする。

書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりするに当たっては、作品の構成、展開などを捉えること、書かれている内容を捉えること、書かれている内容から書き手のものの見方、感じ方、考え方を捉えること、構成や展開の工夫が作品の内容とどのように関連しているのかについて捉えることが大切である。なお、見解とは、作品の解釈を踏まえて形成された、作品についての自分の意見や考えを指している。

書評を書いたり、議論したりするという具体的な言語活動の場面を設定することで、生徒は明確な目的をもって主体的に作品と向き合うことが期待できる。なお、考えを書いたり述べたりする場合は、事実と考えを明確に分けることや、適切な論拠に基づくことなど

に注意する必要がある。

第5節 国語表現

3 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○文や文章

エ 実用的な文章などの種類や特徴，構成や展開の仕方などについて理解を深めること。

中学校第3学年の〔知識及び技能〕の(1)の「ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。」，「現代の国語」の〔知識及び技能〕の(1)の「オ 文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。」を受けて，実用的な文章などの種類や特徴，構成や展開の仕方などについて理解を深めることを示している。

実用的な文章とは，一般的には，具体的に何かの目的やねらいを達するために書かれた文章である。**報道**や広報の文章，案内，紹介，連絡，依頼などの文章や手紙のほか，会議や裁判などの記録，報告書，説明書，企画書，提案書，契約書などの実務的な文章，法律の条文，キャッチフレーズ，宣伝の文章などがある。こうした文章は，必要な情報を漏れなく書くことを基本としつつ，相手や目的に応じて伝えるべき事柄を取捨選択したり再構成したりして簡潔に分かりやすく書くことが重要である。

また，実用的な文章には社会通念となっている一定の様式があり，それらを使いこなせるようになることが求められる。(略)

指導に当たっては，自分の考えや思いを的確に伝えるとともに，こうした様式について理解を深め，使うことに留意する必要がある。

構成や展開の仕方については，統括する内容を文章のどこに位置付けるかによって，「頭括型」，「尾括型」，「双括型」などに分けられることが多いが，この他，時間的・空間的順序に沿って展開する「追歩式」，印象的な描写を一脈の筋に沿って列叙していく「散叙式」などもある。このような構成や展開の仕方を形式的に真似るだけの学習にならないように，文章構成の型が成立した理由や背景，効果などについて理解することにも留意する必要がある。(略)

〔思考力，判断力，表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

○話題の設定，情報の収集，内容の検討

ア 目的や場に応じて，実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め，他者との多様な交流を想定しながら情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討すること。

「現代の国語」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の(1)の「ア 目的や場に応じて，実社会の中から適切な話題を決め，様々な観点から情報を収集，整理

して、伝え合う内容を検討すること。」を受けて、話題を設定する範囲を実社会の問題や自分に関わる事柄の中からとするとともに、他者との多様な交流を想定することに重点を置いている。

目的や場に応じてとは、何のために、誰に向かって、どのような条件で話したり聞いたり話し合ったりするのかを具体的に考え、それらにふさわしいかを判断することである。ここでの場とは、話すことが実際に行われる個々の様々な状況を指す。

実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決めるとは、テレビや**新聞**、インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられる実社会の事象や社会的な問題、さらには個人的な体験や自分自身に関する事柄の中から、何について話したり聞いたり話し合ったりするのかという事柄や対象を決めることである。例えば、将来どのような仕事がしたいのか、どのような生き方をしたいのかなど、進路選択に関する事柄や、自分の生き方を見つめ直すきっかけとなった他者とのエピソードなどが考えられる。なお、話題を決めるに当たっては、実社会の問題と自分に関わる事柄を関連させながら考えていくことも重要である。

他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討するとは、自分とは異なる多様な意見や考え方があることを前提にした上で、互いの思いや考えをはっきりと言葉にして伝え合い、相互理解を図るために、目的や場や相手にふさわしい情報を収集、整理し、伝え合う内容を検討することである。(略)

○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）

オ 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること。

「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の(1)のエを受けて、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすることを示している。(略)

聞き取った情報を吟味するとは、聞き取った情報が正確なものであるか、適切な根拠に支えられたものであるか、自分にとって必要な情報であるかなど、様々な視点から情報を精査し、取捨選択することである。例えば、テレビや**新聞**、インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられる情報は、発信者にとって利用しやすい形や内容に整理されていることが多いが、その情報がどのような立場から切り取られ、どのように組み立てられているかを慎重に吟味する必要がある。

相手の話を聞くに当たっては、共感的に受け入れるだけでなく、批判的に聞く姿勢も求められる。また、言葉の意味を表面的に理解するだけでなく、発音の仕方や言葉遣い、表情などから、話の奥に隠された相手の気持ちを察することも必要となってくる。聞き取った話を比較、評価することを通して、多様な考えを理解したり自分の考えを見直したり、新しい考えを生み出したりして、自分の考えを広げたり深めたりすることが重要である。

○言語活動例

ウ 異なる世代の人や初対面の人にインタビューをしたり、報道や記録の映像などを見たり聞いたりしたことをまとめて、発表する活動。

異なる世代の人や初対面の人にインタビューをしたり、**報道**や記録の映像などを見たり聞いたりしたことをまとめて、発表する言語活動を示している。

異なる世代の人や初対面の人の中には、異なる価値観や意見を持っていたり立場が異なったりする人もいることが考えられるが、そうした人から話を聞くことは、聞き手の視野を広げることにつながるだけでなく、生き方、在り方を深く考えさせる機会となる重要な活動である。

インタビューとは、目的を持って特定の相手に質問し、必要な情報を聞き取ることである。その形式には、一問一答式のインタビューや、おおまかな質問事項を決め、答えによって相手からさらに言葉を引き出していくインタビューなどがある。インタビューするに当たっては、その目的を明確にし、どのような形式のインタビューとするかを考えたり、メモの取り方、どのように質問したら求める答えを引き出しやすいのか等を考えたりする学習を取り入れることが重要である。

報道や記録の映像とは、例えば、**新聞**やテレビ、インターネットなどを媒体にして伝えられる文字や映像の情報のことである。

報道や記録の映像などを見たり聞いたりするに当たっては、情報の信頼性に注意しながら、伝えられる情報がどのような意図のもとに編集されたものであるか、その背景を含めて読み取るなど、テレビや**新聞**、インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられる情報を掘り下げ、まとめる学習が必要である。

見たり聞いたりしたことをまとめて、発表する際は、聞き取ったり見たり聞いたりした情報を、無批判に受け入れたり用いたりすることなく、重要度や信頼度などによって適切に取捨選択することが求められる。また、伝えられる情報の何に視点を置いて話を聞くのか、さらに聞き取った内容をまとめ何を伝えたいのかによって、聞き取る情報が変わっていくことに留意する必要がある。

B 書くこと

○題材の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすること。

「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(1)の「ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること」を受けて、「題材の設定」の範囲を実社会の問題や自分に関わる事柄の中からはとして、実社会の問題に一層強い関心を持ち続けるとともに、社会と自分との関わりを強く意識し、問題の本質について深く考察することへと発展させている。

また、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味した上で、さらに情報の組合せなどを工夫することによって、自分の思いや考えを伝える材料として活用したり、伝えたいことをいっそう明確にしたりすることへと発展させている。

実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決めるとは、広くは世界で生起する政治・経済上の出来事や、科学、文化、芸術、スポーツについての知識や話題、狭くは身の回りで起きる様々な諸問題の中から、考察するに値する題材を決めることである。

題材を探すに当たっては、**新聞**、テレビ、インターネットなどの**マス・メディア**を通じて伝えられる事象や問題だけでなく、まだ顕在化していない諸問題や、予想される未来社会の諸課題などについても関心をもち、自分に関わる事柄としてとらえ直すことが必要である。

自分に関わる事柄としては、個人的な体験や自分自身に関する事柄、例えば、将来どのような仕事がしたいのか、どのような生き方をしたいのかなど、進路選択や、日常的な人間関係についての事柄も考えられる。

実社会では、多様な立場から異なった意見や情報が数多く提供される状態になっている。こうした時代にあって、自分の思いや考えを確実に読み手に伝えていくには、日頃から、実社会の問題に関心をもち続けるとともに、それらを自分に関わる問題として受けとめ、自分なりの明確な考えを持つようにしておくことが重要である。

情報の組合せなどを工夫するとは、設定した題材について、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味するとともに、内容や種類の異なる複数の情報を適切に選択し、組織したり統合したりして、活用していくことである。

主題を支える具体例として各種の情報をを用いる際には、自らの体験だけでなく、文献調査や聞き取り調査やインターネット等を通じて収集した情報を組み合わせて用いるようにするとよい。収集し分析した情報を基に、その使い方について吟味しながら、伝えたい内容を検討していくことによって、自分の主張や意見が客観的な裏付けを伴ったものになる。

必要な情報を適切に選択し組織したり統合したりする際に重要なのは、何のために読んでもらうのかという目的意識と、誰に読んでもらうのかという相手意識である。読み手と目的が明確になれば、伝えたい内容（主題）も焦点化してくる上に、主題を支える具体例も、読み手にふさわしいものが選べるようになる。

また、目的や読み手に応じて、情報を選択したり組織したりする基準が変わるということにも留意する必要がある。(略)

情報化社会は今後、さらに進んでいくものと予想される。そうした社会の状況に対応し、情報を受信する立場と発信する立場の両面から、目的や読み手に応じて、情報を組み合わせて整理する方法を理解することが重要である。

○言語活動例

オ 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理したり話し合ったりして、自分や集団の意見を提案書などにまとめる活動。

設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理したり話し合ったりして、自分や集団の意見を提案書などにまとめる言語活動を示している。

設定した題材について多様な資料を集める具体的な場面としては、学校図書館や地域の図書館などで本や辞典、図鑑などを読んで情報を収集したり、日々の**報道**やインターネットなどを活用したりすることが考えられる。情報科担当教員や司書教諭などとも連携して、インターネットを利用したり、学校図書館や地域の図書館などで必要な情報の収集、選択を行ったりする必要がある。

調べたことを整理したり話し合ったりする具体的な場面としては、編集会議などが考えられる。調べた情報の信頼性や妥当性を確かめるとともに、その情報の重要性や情報と情報の関係を検討しながら、意見をまとめていく必要がある。

自分や集団の意見を提案書などにまとめる際には、客観性や正確性が求められる報告や説明をすることにとどまらず、必要性や実現可能性を予測して、新しい企画を立ち上げ、その趣旨や実行方法などを具体的に述べることが求められる。

カ 異なる世代の人や初対面の人にインタビューをするなどして聞いたことを、報告書などにまとめる活動。

異なる世代の人や初対面の人にインタビューをするなどして聞いたことを、報告書などにまとめる言語活動を示している。

異なる世代の人や初対面の人にインタビューをする具体的な場面としては、地域の職業人や達人などに取材して、仕事の内容や生きがいなどについて詳しく聞き出すことなどが考えられる。この学習は、個別的な経験や事実の中にある普遍的な意味をつかむ力を育てることにもつながるものである。そして、この学習をさらに意義深いものにするために重要なことは、聞き出したことを文章化し、報告書などにまとめることである。

報告書などにまとめる際の具体的な様式としては、取材の経過も含めてルポルタージュ風にまとめる場合、取材相手の業績や人柄を紹介するためのプロフィール**記事**風にまとめる場合、問いかけと答えのやりとりを再現するように対談風にまとめる場合、語り手の独り語り風にまとめる場合などが考えられる。

インタビュー内容を書き言葉に改める場合には、聞いたことを整理し直して小見出しを付けるなど、文章の構成や展開について工夫することが必要である。また、語り手の口調を残したり、語っている時のしぐさなどをト書き風に補足説明したりするなど、記述や表現について工夫することも必要となる。話し言葉を書き言葉に改める過程を経験することは、言葉の特徴や使い方について改めて考え直す機会として生かせるものである。

第6節 古典探究

3 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○文や文章

イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。

中学校第3学年の〔知識及び技能〕の(1)の「ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。」を受けて、古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることを示している。

作品や文章の種類には、文学的な作品や文章（物語、小説、詩歌など）、論理的な作品や文章（評論、**論説**など）、実用的な作品や文章（記録、手紙など）などがある。特に伝統的な言語文化の精華である古典の作品や文章の種類は豊富であり、例えば、古文には、和歌、俳諧、作り物語、歌物語、歴史物語、随筆、日記、説話、詩歌などに関する評論、仮名草子、浮世草子、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎など、また、漢文には、思想、史伝、辞賦、古体詩、近体詩、寓話、説話、論、説、記、小説など、多種多様な形態がある。

その特徴とは、作品や文章の種類がそれぞれ備えている音韻やリズム（五七調、七五調、五言、七言など）、構成や展開の仕方などをいう。例えば、歌物語には、和歌にまつわる物語、章段による構成、会話と地の文、統一的な主人公の有無などの特徴があり、冒頭に「今はむかし」、「むかし」など共通する語句が見られるものもある。

古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることは、古典の作品や文章に対する理解を深めるだけでなく、構成や展開の仕方などを的確に捉えることや、古典に特有な表現に注意して内容を的確に捉えること、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈すること、表現の特色について理解することにも役立つ。また、表現様式の時代や地域による変化、書き手特有の表現上の特色を把握することにもつながる。その特徴についての理解を深めることで、伝統的な言語文化の理解も一層深まってゆく。

なお、指導に当たっては、既存の知識を理解させるだけでなく、生徒の気付きを重視して、古典への興味や関心を広げたり深めたりすることが大切である。

以 上